

特集：キャリア支援

就職活動を終了した修士2年生から生物学類生へのメッセージ—総集編—

- 赤星 渚 (所属：人間総合科学研究科・免疫学研究室 内定先：ブライダル業界・接客業)
 荻田 将宏 (所属：生命環境科学研究科・植物系統分類学研究室 内定先：理化学機器業界・営業)
 川崎 真澄 (所属：生命環境科学研究科・小野研究室 内定先：食品業界・研究開発職)
 木場 隆介 (所属：生命環境科学研究科・林研究室 内定先：食品業界・商品開発職)
 島田 尚久 (所属：生命環境科学研究科・鎌田研究室 内定先：食品業界・研究開発職)
 高垣 香菜 (所属：人間総合科学研究科・基礎医学系免疫学研究室 内定先：製薬業界・研究職)
 服部 桂祐 (所属：生命環境科学研究科・林研究室 内定先：食品業界・開発職)

※以下、就職活動を経験した修士2年生に各質問事項に答えて頂きました。

①就職活動を終えての感想

<赤星 渚>

最初は何から始めていいものか全くわからず戸惑ったが、途中から自分とは全く異なるバックグラウンドを持った人達と出会う機会として捉え、自分なりに楽しむよう心掛けていた。そうすることで気が滅入るのを防ぐこともできていたと思う。また、就職活動を通して以前より視野が広がり、自分の人生やあり方について振り返る良い機会になったと感じている。どれ程多くの人々が関わって世の中が成り立っているかを学ぶこともでき、社会勉強にも繋がった。

<荻田 将宏>

就職活動は、当初想像していたよりも楽しい活動であったというのが率直な感想です。もちろん、立て続けに志望度の高い企業の面接に落ちた時などは、落ち込みました。ただ、就職活動を通じて出会った人とのつながりがあったからこそ、現在このように感じられているのだと思います。また、これまでの自身の歩んできた人生を、これ程まで真剣に振り返ったことはない、強く感じました。就職活動は、大変なイベントではありますが、自身の描く将来像に近づくための活動でもあるため、今後、就職活動をするにあたり、是非楽しみながら取り組んでほしいと思います。

<川崎 真澄>

私は周囲よりも就職活動が長引きました。しかし、最終的には志望した職種に就くことができたことに納得しています。

<木場 隆介>

本当に楽しくて、充実したものだ。これが就職活動を終えた私の率直な感想です。一生のうちに、これほど真剣に自分を振り返り、見つめ直す機会はないと思います。一生のうちに、これほどたくさんの企業を見て廻り、全国の人間と出会う機会は滅多にないことでしょう。思いがけない考え方や素晴らしい生き方に遭遇する毎日は、とても新鮮で刺激的でした。もちろん、楽しいことばかりではありません。思い通りにならないことも多々ありました。何社も落とされる中で、先が見えない不安と焦燥に駆られることも何度もありました。しかし、今振り返れば、それ

らの苦悩や葛藤の日々こそが、後の自分の成長と自信、感謝につながっていったと思います。10年後、20年後の自分がどうなっていたいのかを想像し、これからの輝く未来を存分に思い描くことができた貴重な経験でした。

<島田 尚久>

「楽しかった」それが一番の感想です。自分の将来をこんなにも考えた時間は今まで無く(大学院進学の時にもっとしっかり考えろよって話ですが…)不安に思うこともかなりありました。しかし、社会人の方々とお話をしたり、工場を見学したりと、普通なら経験できないことが体験でき、とても刺激的でした。また、面接で日本各地に足を運べたことが何よりも楽しかったです。私は名古屋に大阪、九州と色々なところを回りました。もちろん各地の美味しいものを食べ歩きました。食品業界志望たるもの、美味しいものはリサーチしなくちゃいけません(笑)。

<高垣 香菜>

あつという間であった。初めから製薬、食品系の研究職に絞っていたため、10月にWebエントリーを行い、1月から本格的に就職活動を始め、4月初旬に内々定を頂き就職活動を終えた。ただ、たった4ヶ月であっても、研究活動と就職活動を両立させることは身体的にも精神的にも大変であった。

私の場合、研究活動に大きく傾いたまま就職活動を続けていたが、逆にそのことが功を奏したため第一志望の企業に内定を頂くことが出来たのだと思う。

<服部 桂祐>

正直に言えば楽しさ半分、辛さ半分でした。しかしそんな感情よりもなにより、就職活動をやってよかったと今でも実感しています。それはより深く自分のことを理解でき、また目標が持てる企業を選びだすことができたからです。

②就職活動前に普段から心がけておくべき準備

(就職活動を終えて活動前にやっておけば良かったと思うこと/いつの時期に何をすれば良かったと思うか?)

<赤星 渚>

私自身は就職活動を始めるまで自分の将来や夢について深く考えることが少なかったためもっと普段から考えておけば良かったと感じた。これまでの自分の人生を振り返り、「自分は何が

したいのか。どういったことが好きなのか。」を考えてみると自分の行動や思考に意外な共通点が見つかることもあり、それが将来の職業に繋がる事もあると思う。

<荻田 将宏>

就職活動で最も心掛けておくべきことは、『自分の将来像』を明確にもつことだと感じました。自分が将来何をしたいのかを自分の言葉で語れる人が、きっと面接の場でも、自分らしさを発揮でき、より魅力的に映るのだと思いました。また、本屋で売られているような就職活動（特に面接）のテクニック本は、ほとんど読みませんでした。なぜなら、企業・面接官が求めている人は、マニュアル通りに話せる人ではなく、“らしさ”をもった人だと思ったからです。また、ESに記入するために、改めて何か資格を取るための勉強をするよりも、学生時代にサークル、趣味、ボランティア、アルバイトなど、何かに打ち込んだ姿が一番のアピールポイントになると思います。

私は、夏過ぎからぼんやりと就職活動について考え、12月頃からしっかりとスタートしていました。何事も早いに越したことはありませんが、12月頃からES対策を始め、1~2月頃から面接対策を始めれば、十分だと思います。

<川崎 真澄>

私は早い段階から自分とはどのような人間かを把握するための自己分析を行うことをお勧めします。特に友達や家族など身近な存在に自分とはどのような人なのかを聞いてみると良いと思います。自己分析によって自分の特性を知ることが就職活動に余裕を与えます。さらに、自己分析を通して生活を見直すことで大学生活をさらに充実したものにすることもできると思います。

<木場 隆介>

とにかく「自分が全力で挑んだ、人に誇れる経験」を一つでも多く創っておくことだと思います。勉強でも、サークルでも、バイトでも何でも良いと思います。自分が夢中になって打ちこみ、困難を乗り越えて得た経験は、就活で大きな武器になります。「学生時代最もがんばったこと」は、どの業界・職種においても、必ずエントリーシート（ES）や面接で聞かれることだからです。その時に、人に語れる経験をたくさん持っている人ほど、企業側の人間に魅力と将来性をアピールできるのではないのでしょうか。また、そのときまでに、自分の経験を自分の「気持ち」と「ことば」で語れるようにしておく必要があると思います。

<島田 尚久>

まずは私が考えたことは「どんな職業に就きたいのか」です。生物学類は食品を希望する人が多いと思います。しかし本当にそれでいいのでしょうか。40年間働くことを考えると、やはりいろいろな職を見ておいた方が良いと思います。私は興味のわいた会社には出向くことにしていました。家具屋さんや医療機器を扱う会社、プラスチックメーカー…。いろいろ見ましたがやはり私は料理が好きなので、食品がいいなあという結論になりました。

次に考えたことは「勤務地」です。私は就活を始めてすぐの頃は「勤務地はどこでもいいか…」とか考えていました。しかし就活終盤、両親・恋人・住環境などなど、様々なことから「勤務地

は関東」という思いが強くなりました。皆さんもしっかりとご両親、恋人等に相談してから決めた方がいいと思います。働く時になってから「ここで一生働くのか、不安だ…」ということにならないように。

その他もちろん、人それぞれ職に譲れない点はあると思います（給料・福利厚生・会社規模・雰囲気etc.）。それらを考えたら、あとはその順位づけです。譲れない点すべてを満たしている会社に入れるのがベストですが、そう上手くはいかないかもしれません。この譲れない点をはっきりしておくのとそうでないのでは、志望度の高い会社のエントリーシート提出や面接に入る気合が全然違うと思います。

就職活動を終えて活動前にやっておけば良かったと思うことはWebテスト対策です。私は「企業はWebテストなんて重視しないだろう」という都合の良い盲信をしていたので、対策が疎かになっていました。しかし、振り返ってみると半数以上ここで落とされている気がします…。

その他、新聞を読んだ方が良い、OB訪問をした方が良い等々様々なことが言われています。全部やるに越したことはないでしょうが、時間は限られています。自分に足りないものは何か、やるべきことは何か、しっかり考えて準備を行ってください。

<高垣 香菜>

・自己分析

私は実際にエントリーシート（ES）を書かなければいけない段階で、自分のことが全く表現できないということに気が付いた。

- どういう人間なのか（長所、短所）
- どういう考えの元これまで生活してきたか（進路決定等）
- どういう経験をしてきたか（アルバイト等）

就職活動が本格化する前に、これまで自分が歩んできた道のりを良く思い出し、文章にしておくと思う。特に人間性については色々な人（友達、両親、先生）に聞いてみると自分では気付いていなかったことが見えてくるかもしれない。

・Webテスト、テストセンター対策

いわゆる大企業は膨大な数の学生が受けるので、ESの提出とともにWebテストが実施されることが多い。

Webテストの内容は容易なものがほとんどで、単なる足切りの場合が多いと感じたが、普段使わない公式などを瞬時に思い出せる位にはしておかなければならない。多数の対策本が売っているので、用途や自分に合ったものを選ぶと良いと思う。

私は5年間、アルバイトで塾の講師をしていた経験が非常に役立つため、ほとんど時間を費やさずに済んだ。

・TOEIC

多くの企業でTOEICなどの点数を記載する欄があった。私は英語が大の苦手な人で、12月に一度だけ受けたTOEICは製薬系研究職の希望者が書けるような点数では無かった。そのため食品系では点数を記入していたが製薬系では無記入のまま提出していた。

内定先の企業の最終面接で「みんなTOEIC 900点とか書いている中、君だけ無記入なのだけだ。」と言われた時は心臓が止まる思いがした。

TOEICで高得点を取っておくことは必要条件ではないと思うけれども、TOEIC（ごときで）チャンスを逃すことの無いよう

にしっかりと準備しておくべきだと思った。

<服部 桂祐>

将来何をやりたいか、ということを中心に考え、また狭い世間で生きるのではなくいろんなことに挑戦しながら生活すべきだったと感じています。それらはきっと直接自己分析に繋がり、業界研究や企業選びをスムーズに進める手引きになります。

就職活動直前に慌てて将来を考えるのではなく、日々思い描いた将来像に向かって行動できる場にすれば、必ず満足のいく結果がでるのだと思います。またそのためには新聞を読んで社会を知ることが大切なことだと感じました。

③生物学類の教育(幅広く生物学教育)を受けた学生が受け入れられやすい業界および職種。または、受け入れられにくい業界および職種に対する考え。

<赤星 渚>

生物学類は就職活動にあまり有利でないとされがちで、不安を感じる人もいると思う。ただ、就職活動の際は専門職でない限り学生に専門知識や技能を強く求めている会社は少なく、それよりも物の考え方が重視されているような印象を受けた。私は就職活動の途中から生物学とは全く関係のない業界を志望するようになり、「なぜブライダル業界なのか」と面接で聞かれることが多かったが、自分の夢や仕事に対する想いをありのままに伝えれば異種業界でも受け入れられないことはないと感じた。

<荻田 将宏>

特に受け入れられやすい業界・職種は、『人による』というのが本音です。生物学を専攻している・いた方の就職先は、食品業界や製薬業界、化粧品業界などが中心なのかなという印象をもっています。また、私のように理化学機器業界から内定をもらっているため、有名企業だけではなく、興味を抱いた業界について、深く知ることが大切だと思いました。

就職活動の目的は、自分が描く将来像を達成できるであろう企業から内定を得ることだと、私は考えています。そのため、自分の専攻と業界選びとを、あまり深く考える必要はないと思います。なぜ、その業界・職種に就きたいのかを自信をもって話せば、心配はいらないと思います。

<川崎 真澄>

就職活動を通して感じたことは未だに文系学生は学部で卒業、理系学生は院までいくことが当たり前であるという考えが根付いていることです。

そのために理系は研究職、開発職の職種に受け入れられ易い、一方で営業職や事務職の職種には受け入れられにくい傾向があります。

しかし業界研究を行い、しっかりした志望動機、将来展望を持っていればどの職種にも受け入れられる可能性はあります。

<木場 隆介>

一般的な傾向としては、生物学を専攻した学生は食品業界や化粧品業界、製薬業界などのメーカーを志望していることが多いです。しかし、どのようなバックグラウンドであろうと、企業側の人事の方は、専攻してきた学問よりも、「人」そのものを見てい

るケースが多いように思います。つまり、その人の性格や考え、強みや弱み、価値観などを重視していると思われる。特に、新卒採用では、中途採用のように即戦力を求めるのではなく、その人を育てることを前提としているため、その人の持つ「将来性」を最も重視しているのではないのでしょうか。

したがって、「どんな学問を専攻してきたか」は選考にあまり関係ないかもしれません。

<島田 尚久>

「受け入れられやすい業種」なんて無いと思います。「入りたい」と強く思える業種が「受け入れられやすい業種」なのだと思います。

<高垣 香菜>

基本的にどんな業界、職種であっても本人の意思があれば受け入れられると思う。

ただ職種によっては応募条件が修士卒以上であったり、逆に学部卒のみであったりする。特に専門性が重視される研究職は修士卒が絶対条件である場合がほとんどであった。

<服部 桂祐>

そういったことを感じたことがありません。コンサルや鉄道、または営業など様々な業界、業種を受けましたが、自分なりの思いがあればどうにかなるとするのが素直な感想です。「何故、生物学を研究してきて、関係のないこの仕事をやりたいの?」という質問に、自分なりの信念を持って解答できればどこにだって通用します。むしろ視野が狭まり、食わず嫌いのように目を向けられない業界や職種を持つことは本当にもったいないと思います。

④就職活動中にとった戦略について

(ES、筆記試験、面接。さらに、生物学類での教育がどのように生かされたかなどあれば可。)

<赤星 渚>

就職活動中はESや面接に向けて自己分析を続けた。一度結論を出して満足するのではなく、就職活動の中で新たな発見があって自分自身の考えが変わることもあるので、常に自己に対する理解を続けることを心掛けた。これは就職活動に限らず今後も自分の目指す方向を考える上で継続していくべきだと感じている。また、自己分析だけでなく周囲の人から見た自分について知ることでも大きな発見がある。少し恥ずかしい気持ちはあるが、身近な友達や親などに自分がどう映っているか聞いてみると自己理解がさらに進むと思う。

ESは就活生同士で評価し合うだけでなく、社会人にも見せようと学生とはまた違う視点での指摘をいただけると思う。また、社会人の方の話を伺うことで様々な物の見方を知ることのできる。私はできるだけ多くの社会人や内定者に仕事や就職活動の話を聴くようにしていた。

生物学類で学んだことの内、目標を設定して達成までのプロセスを吟味し、実行していくという考え方や経験が就職活動の中で生かされたのではないかなと思う。

<荻田 将宏>

就職活動では、計画的に対策を立てることが大切だと感じました。まず、ES と面接の対策としては、とにかく数をこなしていくことが大切だと思いました。そのため、12月～3月頃に、頻りに友達とお互いのESを見せ合い、アドバイスをもらっていました。また、面接対策でも同様に、友達とお互いに模擬面接を何度か行ないました。これらは非常にためになりました。相手のESや面接を客観的に見ることで、自分に反映できる点が多かったからです。このような繰り返しによって、本番ではより質の高いESや面接につながると感じました。筆記試験対策としては、市販の本を1冊解けば十分だと思います。

<川崎 真澄>

私はES作製の際には読む人が読みやすいように丁寧な字で内容が分かりやすい文章作りを心がけました。面接では、相手の質問に対し結論から述べるように心がけました。そこでは生物学類のレポートやテストなどでまず結論から述べ、付け足していくという習慣が活かされたと感じています。

<木場 隆介>

・筆記試験

筑波大学の学生ならば、問題集(SPI ノートの会がお薦めです。)を自分で解いていけば必ず出来るものなので、この場では割愛させていただきます。しかし、甘く見ずに、早めに時間をとって、しっかりと対策しておくことをお薦めします。

・ES (エントリーシート)

まず、「結論から書く」ことです。自分の最も言いたいことを最初に述べてしまうのです。だらだらと長い文章の後に結論を持つてくると、何が言いたいのかはつきりせず、理解しにくい文章になってしまいがちだからです。述べる結論は、簡潔に短文で書いた方が通じやすいようです。

次に、「具体的なエピソードを盛り込む」ことです。抽象的な表現を書き連ねるよりも、実際に自分が経験したことを具体的に書く方が、自分の考え方や生き方を理解してもらいやすいです。その際、「その経験を得るきっかけとなったこと」、「その経験のどこに最も苦労し、何を考え、どう動くことで、その困難を乗り越えたのか」、そして、「その経験から何を学んだのか」をはっきり述べるようにすると良いです。

最後に、「自分の学んできたことをその企業でどう生かしていきたいか」を書くといいでしょう。結局、企業が最も知りたいのは、「将来その人が入社した場合に、どんな活躍がどの程度期待でき、その成果がどれだけ自社の発展に貢献するのか」という点です。自分の誰にも負けない強みを、志望する企業でどのように生かせるか。そのアピールがESでは大変重要に思います。

・面接

面接の具体的なアドバイスとして、私が就職活動を通して出会った様々な方々から頂いた貴重なお言葉をここに述べさせていただきます。私はこれらの言葉をいつも面接直前に振り返り、勇気と自信をもらっていました。ぜひ、これから就職活動を迎える皆さんに贈りたい言葉です。

・就活は婚活だ！一生のパートナーを真剣に選んでほしい。苦しいことや辛いことが多いけど、楽しむことも忘れないで！

(某大手食品メーカー：OBの方)

・自分を信じて自信を持つこと。「できる」と思うことが大切。
(某大手食品メーカー：OBの方)

・面接は笑顔で。ぜひ、面接を楽しんで！
(某大手製薬メーカー：人事部の方)

・面接は相互理解の場。採用側が一方的に知る場ではない。
(某大手化粧品メーカー：人事部の方)

・「面接者と会話するんだ」という気持ちで望んだ。
(某大手外資製薬メーカー：昨年度内定者の方)

・ありのままの自分で真剣勝負！企業側のニーズを知り、自己PRしていこう。
(某大手食品メーカー：OBの方)

・身だしなみはしっかりと。シンプルに熱く！
(某大手日用品メーカー：昨年度内定者の方)

・言いたいことは詰め込みすぎないように。わかりやすく丁寧な言葉遣いで。結論から述べよう！レスポンスは早めに！ハッキリ！ハキハキと！
(某大手外資製薬メーカー：人事部の方)

・自分の輝く未来を考えることって辛いことですか？就活は絶対に楽しいですよ！！
(某大手食品メーカー：人事部の方)

<島田 尚久>

・大手ばかりを受けない

これ結構重要だと思います。大手はやはり競争率が半端ないです。エントリーシートで落とされることなんてしょっちゅうで、これが何度も続くと心が折れます…。そんな中、ある程度選考が進んでいる中小企業があるだけで、心に余裕ができます。ただ調子に乗ったり、油断したりするのが難点です。

・エントリーシートを人に見てもらう

案外恥ずかしくってやりにくいですが。でも効果は抜群でした。本音でしゃべれる友達(特に自分と全く進路の異なる人)に見てもらおうと、自分では全然気が付かないところを指摘され驚きました。

・笑顔

意外と面接は緊張して笑顔を忘れがちです。でも結構重要だったと思います。笑顔になると不思議と緊張も吹っ切れますし、何よりも面接を楽しんでやろう！という気分になれます。

<高垣 香菜>

・ES

私はES戦略を大きく間違えたと思う。常に提出締切り直前に書いていた。特に1月は毎回速達で提出する自転車操業のような状態であった。

ESはとにかく早めに提出すること。引き出しに寝かせておいても何も良いことはない。

・面接

基本的な事だが、相手の目を良く見てはっきりと端的に会話すること。また等身大の自分を相手に伝えること。自分を良く見せようとしても、見抜かれると思う。

【製薬系研究職】

研究職の面接は2回しかなかった。企業によって面接構成や構成員は異なるが、概ね以下のような内容であった。

1次面接：研究職者と人事担当

研究プレゼンに加え人間性など全てを審査される。研究についてのディスカッションが多く、内容というよりは考え、自主性など研究職者として使えるかが試されていたと思う。面接官は最大7名、時間は最長で2時間であった。

最終面接：研究本部長と人事部長

一次面接の2,3日後に行われた。入社する意志があるのかを確認するとともに、再度人間性を見られたと思う。実質的には一次面接の通過が内々定という感じであった。

<服部 桂祐>

生物学類の教育で就職活動に生かすことができた事例は、生物学類の様々な行事だと思います。大学説明会、研究室見学、生物チャレンジ、国際生物学オリンピックなど、自分が主体的に参加した行事は、自分の人柄を語る上でのエピソードとして面接やESで使用することができました。やはり何か目的を持って、いろいろな行事に参加することは、自分の成長に繋がり、その結果就職活動などで語れる内容になります。そういった意味で、生物学類が企画して頂いた行事というのは、とても有益だったと感じています。

⑤生物学類教育に望むこと

<赤星 渚>

生物学類は例年大学院に進学する人の割合が多く、自分の将来についてあまり向き合う機会がなく進学してしまうこともあるように思う。そこで、学類時代にもう少しキャリアを考える機会を与えてもらえたらと考えた。私自身全く異なる業界に進む上で大学院に進んだことは後悔していないつもりではあるが、修士1年で就職活動を行うに当たり学類時代にも就職活動を経験して自分の視野を十分に広げておくべきだったと感じた。

<荻田 将宏>

私は他大学の生物コース出身のため、生物学類の授業や実験に関しては、TAとして参加した経験しかありません。しかし、筑波大学で学生生活を過ごしていると、周辺にある研究機関や大学内でのイベントと関わりをもつ機会に、とても恵まれているという印象を受けました。そのため、普段からそのような場に積極的に参加し、多くの経験をしてみることで、新たな興味が芽生えるかもしれないと思いました。私は、学内で行なわれているSCOUT(科学ボランティア)の活動に何度か参加し、日本科学未来館(お台場)で活動紹介をしたことがあります。とても貴重な経験をすることができました。学類教育としては、学生に対して、

このような情報を多く発信することで、より魅力的な学生生活に繋がられるのではないかと感じました。

<川崎 真澄>

私は様々な分野に触れる機会を提供してくれることを望みます。そして授業が知識の詰め込みで終わるのではなく、学生が自ら学び始めるための動機付けになるような教育を今後も行っていただきたいと考えています。

<木場 隆介>

「問題解決型能力」の育成です。これは、ある未知の問題に対して、自ら解決法を考え、その方法を試みて得られた結果から、再び試行錯誤を繰り返してアプローチを重ね、自発的に解決に導く能力です。具体的には、実験や研究の中で培われていく能力だと思います。就活では「自ら考え、動く」ことが非常に重要な要素になってきます。そのため、問題解決型能力は不可欠な能力であるといえるでしょう。私の場合、就活前の研究生活の経験が非常に役に立ったような気がします。私の研究生生活は失敗の連続で、目に見えるような成果は出せませんでした。問題解決のために常に解決法を考え続ける中で、この問題解決型能力を養うことができたと思います。この能力は、研究だけでなく、あらゆる分野で必ず生きるはずで、自らの好奇心と探究心を追求する生物学には、他の学問に比べ、この能力を磨き、高めるチャンスが多い気がします。ぜひ、生物学類教育でもっとそのチャンスを提供して頂ければと思います。

<島田 尚久>

特にないです。

<高垣 香菜>

視野を広げられるような教育。

<服部 桂祐>

生物学演習の制度を見直してもいいのかなと感じています。生物学類生の多くは学類時代に就職活動を経験せずに進学してしまいます。その1つの要因として、私は生物学演習だと思います。大体3年生の3学期に生物学演習が始まりますが、それはちょうど就職活動の始まる時期でもあります。生物学演習に熱心になるあまりに、就職活動に意識が向かなくなり、結局は進学の道を進む人は少なくないと思います。ですので、もう少し就職活動がしやすくなるような処置というのがあっていいのではないかと考えました。

⑥将来の抱負

<赤星 渚>

私自身の将来の抱負は、「人を笑顔に、幸せにする」という夢を叶えることである。

<荻田 将宏>

私は、理化学機器業界の営業職として内定を頂きました。近い将来、海外のメーカーとも商談ができるような、グローバルなビジネスマンになりたいと思っています。これからは、社会人とし

て、今まで以上に自身に責任をもって、充実した日々を過ごそうと思っています。

来年の春からは、新社会人として、謙虚にそして熱い想いをもって頑張っていきたいと思います。

<川崎 真澄>

私は歳を重ねても新しいことに興味を抱き続けることを忘れずに商品開発に活かしていけるように日々を満喫していきたいと思っています。

<木場 隆介>

新たな「食」を生み出し、世界中に普及させ、たくさんの笑顔に貢献することです。「食べる」ことは「生きる」ことです。したがって、「食」の開発は、年齢や性別や国境を越えて、世界中のあらゆる人の「生」に貢献できる、非常に有意義な仕事です。いつの日か、自分が創った食品が、多くの家庭のさまざまな場で愛され、そこに喜びを創り出すことができたなら幸せです。そんな商品をたくさん生み出すことが夢です。

<島田 尚久>

自分の作った商品をヒット商品にすることです。一般家庭で普通に食べられ、「美味しいね!」と言われ、冷蔵庫には常に1つストックがある…。そんな商品が作れたらいいなと思います。

長々と失礼しました。偉そうなこと書きましたが、私の言ったことは参考程度にとどめてください。先輩がこう言っていたから…。と言って鵜呑みにするのが一番よくないことだと思います。自分に合った就活スタイルを見つけてください。

<高垣 香菜>

医薬品の上市に貢献し、一人でも多くの患者さんを笑顔にすること。

<服部 桂祐>

食の流行を発信できる人になりたいです。それは私が就職する会社が原料を扱うメーカーであり、あらゆる食品と関わることができる環境だからこそ可能だと感じています。食品業界全体を見直し、商社など他の業界とも連携することで実現してみたいです。

Communicated by Jun-ichi Hayashi, Received December 2, 2011.